

授業科目(ナンバリング)	介護援助技術(DF304)			担当教員	浦 秀美		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習は、実習等で高齢者や障がいのある人と関わりを持つ可能性のある学生が学修する。基本的な介護技術の知識と技術を理解し実践時の留意点を理解したうえで実施する。そして、介護を必要とする全ての人に対し、その人に合った介護が提供できるために必要な知識・技術も学修していく。</p> <p>演習では、利用者の生活を理解し、一つひとつの動作についての原理や原則、支援方法を学んでいく。知識を定着させ、自身で動けるようになる力をつけていきたい。さらに、利用者が介護されている時の気持ちを理解した上で支援ができるようになることもねらいである。そして、本学のディプロマポリシーでも示されている専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとしたい。</p>							②⑥⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の状況・状態から必要な支援が説明できる。</li> <li>・基本的な介護の原理や原則を説明できる。</li> <li>・演習等の体験を通し利用者の理解したことを説明できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技テスト</li> <li>・課題レポート</li> </ul>	40% 20%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の状況・状態(麻痺の有無や認知症の程度等々)にあった支援方法を指摘できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討、実践</li> </ul>	10%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から積極的に支援者の姿勢や利用者の態度等を表現できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討、実践</li> </ul>	15%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の状態像を多角的に理解・把握した上で、他者と協調して具体的支援について検討し、解決できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討、実践</li> </ul>	15%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実技テスト (40%) : 15 回目授業時に、「外出支援における留意点：車いす操作と環境状況に応じた衣服の取り扱いと留意点を踏まえた支援者としての動きから評価を行う。評価は実技後に配信する実技チェックポイントにて自己採点を行う。</li> <li>・ 課題レポート (20%) : 演習時配付するコメントカード、排泄体験レポート、実技テスト後の振り返りレポートにて評価する。評価後のレポートはポートフォリオや授業時等でフィードバックする。</li> <li>・ 事例検討、実践 (40%) : 授業中の授業態度 (演習への積極的な取り組みや配付プリントへの要点書き込み状況等) から評価する。また、授業中の発言や取り組み等にて評価する。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>本演習は実習等で介護を必要としている利用者（高齢・障がい者）と関わる学生に主眼を置いた授業展開となる。介護実習室での授業を中心に行う。配付プリントによる支援の原則や、授業内容の確認を行った上で演習に取り組む（グループワークやペアワークによるディスカッションやディベートを実施する）。実技演習は、支援者として必要な知識や技術を培うために支援者役も行う。また、利用者の気持ちを理解した上で支援が行うためにも利用者役も行う。さらに、物品の準備から後片付けも支援の一つとして捉え、実践していく。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：前川美智子(2008)『根拠からわかる介護技術の基本』中央法規            参考書：演習時適宜紹介する            指定図書：前川美智子(2008)『根拠からわかる介護技術の基本』中央法規</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

利用者の生活理解の前に、自分自身の生活の送り方を意識的に捉えて下さい。そして、行動一つひとつが様々な動作でできていて、流れがあることについても意識的に考えて下さい。例えば、利き手ではない方の手でボタンをかけたリ食事をしたりする（箸を使ってみる、スプーンを使ってみる）ことで、利き手側が麻痺になった利用者の生活のしづらさを部分的に理解できます。授業の予習として、それらを体験した上で授業に臨まれることを期待します。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	演習概要と評価方法、介護実習室使用時における留意点を確認する。世話・手伝いと介護の違いを学ぶ。	予習：テキスト「はじめに」と「目次」、P. 13～18 復習：配付プリントの再読
2	介護を必要としている利用者の生活の理解	介護の対象となる利用者を学ぶ。入所施設利用者と在宅生活利用者それぞれの1日の生活について学ぶ。	予習：自身の一日の行動式の整理 復習：配付プリントの再読
3	コミュニケーションの重要性と技法	利用者の様子（不調の兆し等）を発見するためのコミュニケーションを学ぶ。	予習：P. 2～12 復習：配付プリントの再読
4	生活環境の整備	利用者の生活スペースの理解と整備を学ぶ。利用者の心地よい環境づくりを学ぶ（ベッドメイキング）。	予習：P. 19～34 復習：配付プリントの再読
5	活動と移動①	利用者が活動・移動するための援助を学ぶ。福祉用具の操作方法やメンテナンス方法を学ぶ。	予習：P. 35、37～40、58 復習：配付プリントの再読
6	活動と移動②	活動前の体位を学び、安楽な体位と安楽体位保持のための用具の使い方も学ぶ。	予習：P. 41～53 復習：配付プリントの再読
7	活動と移動③	杖使用利用者・車いす使用利用者の支援方法を学ぶ。	予習：P. 54～67 復習：配付プリントの再読
8	外出支援と介護	外出支援を見据えた移動介助を学ぶ（坂道、段差、階段、ストレッチャー移動）。	予習：P. 68 復習：配付プリントの再読
9	衣服と生活	利用者の状況・状態に合う衣服の種類や選択を学ぶ。衣服着脱介助を学ぶ。	予習：P. 121～126 復習：配付プリントの再読
10	食事の介護	安全で心地よい食事支援（場所、福祉用具整備等）を学ぶ。介助方法についても学ぶ。	予習：P. 70～86 復習：配付プリントの再読
11	身体の清潔	身体の清潔方法を学ぶ（口腔ケア、清拭、褥瘡の予防的対処）。	予習：P. 87～93、114～116 復習：配付プリントの再読
12	排泄の介護	排泄の環境整備を学ぶ。利用者の状況・状態に応じた排泄の介助方法を学ぶ（ポータブルトイレ、尿器・便器、おむつ）。	予習：自身が行っている「排泄動作」P. 94～108 復習：配付プリントの再読
13	観察とバイタルサイン 実技試験案内	体温、脈拍、呼吸、皮膚の状態の変化を学ぶ。また、バイタルサインの測定も演習する。 実技試験内容の解説	予習：P. 133～145 復習：バイタル測定の実技
14	医療対応時・救急時の介護	受診時の介助、薬の管理と与薬時の介助、応急手当、事故時の対応を学ぶ。	予習：P. 146～160 復習：配付プリントの再読
15	介護方法の確認 実技試験・課題レポート	これまでに演習で学んだ介護方法について確認する（実技チェックテスト）。	予習：実技試験練習 復習：実技チェックを自己評価する